

血液内科を受診している患者さんへ

当科では、下記の研究を実施しています。この研究は、愛知医科大学医学部倫理委員会において、ヘルシンキ宣言の趣旨に添い、人を対象とする医学系研究に関する倫理指針、ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針等を遵守し、医の倫理に基づいて実施されることが審査され認められた研究です。

今回の研究は、対象となる患者さん一人ずつから直接同意を得て行う研究ではなく、研究内容の情報を公開し、研究対象者となることを拒否できる機会を与えることが求められているものです。もし、この研究に関するお問い合わせなどありましたら、以下の「問い合わせ先」までご連絡ください。

記

研究課題名	フィラデルフィア染色体陽性成人急性骨髄性白血病における同種移植成績
研究機関名	愛知医科大学病院
研究機関の長	病院長 羽生田 正行
担当科等	血液内科
研究責任者	(職名) 助教 (氏名) 水野昌平
試料・情報を利用する学外の研究機関名・研究責任者名	非該当
研究の意義・目的	t(9;22)(q23;q11.2)ならびにフィラデルフィア染色体(Ph)は慢性骨髄性白血病(CML)に認める染色体異常で、急性骨髄性白血病(AML)にも1-2%程度に認めます。また、Ph陽性AMLはCMLのAMLへの急性転化とは異なる病態として報告されています。この疾患群の同種造血細胞移植の成績と予後因子を後方視的に解析することで、これらに対する同種造血細胞移植の有効性を検証できます。造血細胞移植学会は「造血細胞移植治療の全国調査」として造血細胞移植治療を行った患者情報を収集しており、移植症例登録一元管理プログラム(TRUMP)として管理しています。今回、この「造血細胞移植治療の全国調査」の一環として、「フィラデルフィア染色体陽性急性骨髄性白血病における同種移植成績」の解析を行います。
対象となる患者さん	急性骨髄性白血病のため初回同種造血細胞移植を行った患者さん(1991～2016年に診断)
研究の方法	同種移植の全生存率、非再発生存率、再発率、非再発死亡率を、Ph陽性AMLとPh陰性AMLで比較します。生命予後に寄与する因子(年齢、性別、PS、HCT-CI、移植前の病期、診断から移植までの期間、移植実施年、移植細胞数など)と生存との関連をLogrank検定、Cox比例ハザード回帰検定を用い解析します。
研究期間	倫理審査承認日 ～ 2023年7月31日
研究に用いる試料・情報	情報：初回同種造血細胞移植を行った急性骨髄性白血病患者の治療、治療効果、生存期間など患者情報
外部への試料・情報の提供	なし

試料・情報の利用又は提供を希望しない場合	当院に提供される移植患者データは個人識別不能であるため、情報利用の提供を希望されない場合でも受付できません
その他	
問い合わせ先	愛知医科大学 医学部 血液内科 担当者：(職名) 助教 (氏名) 水野昌平 〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1 電話 0561-62-3311 (内線 23540)